

## 総合型選抜(I期)、(3月期)・学校推薦型選抜 小論文試験 サンプル問題

**問題** 次の文章を読んで、あとの問1および問2に答えよ。

### 土井隆義「人間関係の分断招く」

携帯電話が登場した当初は持つのを嫌がる人が少なくなかった。それに縛られ、監視されることを警戒したからです。今の若い人は逆。仲間から見てもらえないかもという不安を抱えており、携帯を承認のツールとして歓迎しました。

こうした携帯の受容は日本に特徴的な現象といわれていました。例えばメールの使い方です。日本では互いのつながりを確認するために小まめにメールしますが、欧米では必要なときに用件を伝えるだけでした。

これは人が根本的に求める自己承認と関係しています。欧米人は神の承認を求めるため、ほかの人間の視線をさほど強く意識しない。加えて、米国なら人種、欧州なら階級という形で異質な他者が存在した。つまり、社会がフラット（平面）ではなかった。ところが日本は、絶対の神もいないし、人種や階級も強くない。社会がフラットな分、人間関係が重要なのです。

しかし最近では、欧米も日本化し、若者はつながりを確認するためにネットを使うようです。グローバルズムの影響で社会が流動化し、絶対的な価値が揺らいでいるからでしょう。相互承認の高まりはまさにポストモダン（近代後）の現象なのです。

モダンでは〇〇からの解放や自由を求めました。その軸は明確で、人により価値観が大きくすれ違うこともなかった。一方、ポストモダンは解放後の世界。価値観は千差万別となり「本当に自分はこれでいいの？」と不安が募るようになった。普遍的な価値、すなわち抽象的な他者に承認してもらえなくなったため、具体的な他者に承認してもらうしかなくなったのです。

価値観は多様化したのに、人は今、価値観が同じで「いいね！」を共有できる人だけでつながろうとする傾向を強めています。その方が安心して承認を受けられるからです。情報を自由に取捨選択できる携帯やネットもこの傾向を加速させている。人間関係を広く開いていくはずだったツールが、皮肉にもその分断化を招いているのです。

この問題は携帯やネットを規制しても解決しません。使う側の心性の問題だからです。対策として、私たちが価値観の違う他者から必要とされ、自己有用感を持てる仕組みが必要だと思います。若者対策としては、まず親たち自身が異質な他者に対して関係を開いていく姿勢が大切ではないでしょうか。

（〔東京新聞〕、平成29年4月15日）

**問1** 上の文章の内容を200字以内で要約せよ。

**問2** 上の文章に対するあなたの意見を600字以内で述べよ。